

経験

国体が終了しました。1回戦 青森に敗戦しました。力量的には、五分の戦いと臨みましたが、結果は完敗でした。国体は、それぞれの県のスタイルがあり、戦いもあります。しかし、経験(選手・スタッフ)が大切です。平成 26 年には、長崎で国体です。国体で勝つこの姿勢をつけなければ(=選抜チームで勝つ)このことを経験として残します。明日は、仙台 ~ 大阪です。

切換

本日 国体より帰って参りました。7泊8日の行程で、選手は大変お疲れ様でした。今回の国体では、様々なことを学びました。長崎県の国体チームの在り方や今後の地元国体への強化方法などです。今後ブロック国体を突破することは厳しい状況ですが、何とかしなければなりません。今回の国体を材料に、より良い方向に進めなければなりません。長崎国体での天皇杯獲得にはどのような計画を立てるかです。大変ですが、やらなければなりません。日本は広いと感じる秋田わか杉国体でした。

宮日

ここ数日の更新が遅れ申し訳ございません。

10/4(木) 考査終了

10/5(金)6(土) 森川氏クリニック

やらされている練習では、進歩がないと厳しい指導を受けました。選手のやる気、意欲などが甘い状態です。どうして、森川氏を招聘し、指導していただいているか、再度確認させられました。10/7(日)おくんちが始まりました。長崎っ子である私は、シャギリ(おくんちの音色)が聞こえてくると、血が騒ぎます。おくんちは子どもの頃からの大切なお祭りです。朝からテレビでの観戦でしたが、各踊り町のすばらしい出し物がありました。また、知人も参加していました。「もってこい、もってこい」のアンコールがわき上がるのが、おくんちの特有のものです。「もってこい、もってこい」すばらしい演技には、何度もかかります。それに応えて、さらにすばらしい演技です。バスケットボールも同じです。観客を魅了するプレイがなければなりません。「もってこい=ナイスプレイ」が大切です。見ている人に感動を与えられるようなチームにならなければなりません。

2部練

今日は、2部練習を行いました。新チームにとっては初めてではないでしょうか。ゲーム形式を含まない(練習試合)練習では、オフェンス、ディフェンスとも細かな部分まで練習できます。今は、新チームの骨組の段階です。基礎を大切にしなければなりません。また、精神的な部分の成長もさせなければなりません。3年生がいない時は誰がリーダーシップを獲るのか。その辺もポイントです。最後にウエイトトレーニングを行いました。まだまだ力不足です。技術・体力・精神力の全体の底上げが必要です。まだまだ時間がかかりそうです。

100,000

カウンターが100,000を越えました。しかも、更新を確認した私が100,000でした。本当に偶然ですが、嬉しくて投稿しました。次は、150,000が目標です。このポイントも獲りたいですね。

順位

我々が何か行う時には、1つのことだけとは限らずにいろいろなことが同時に起きるのが普通です。同時に起きたことをどのように処理するか。この解決法はたくさんあると思います。それぞれケースバイケースですが、できれば順位をつけて処理することで、一貫性や計画性が生じ、次回のために役立つこともあります。難しいこと・易しいことこの2つの順位つけですが、易しいことから初めた方が良くと考えます。難問は、最終的には処理しなければなりません。そのことで他のことがつまるのでは、超難問になります。バスケットボールでも次のように考えます。

ディフェンスの1例ですが、

1番は、リバウンドシュートをさせない。

2番は、ペイントでのシュートをさせない。

3番は、〇〇など

このこと順位を選手にチームに徹底させることです。何はともあれです。そして次に進むことです。順位つけからいいことが生まれてくると信じます。

正義

昨日のボクシング(WBC世界ライト級タイトルマッチ)の試合を見られた方も多いと思います。私自身は、直接中継は見ていませんが、ニュースや新聞で、その内容を知りました。勝負の世界ですから、勝ち負けはあり、その結果は仕方のないことだと思えますが、特に選手は精一杯戦ったのであれば……問題なのは、選手を教えるコーチ陣にあります。どんな競技にもルールがあります。ルールがなければ成り立たないものです。そのルールを破るようなことを教えることは、たとえプロでもいけないのではないのでしょうか。ルールを破っても、勝たなければならないのでしょうか。正々堂々と戦うことが大切です。まだまだ若い選手は、将来があります。正々堂々と戦って負けても次があります。

正義は勝つ

この言葉を大切にしなければなりません。

正義2

昨日に続きますが、コーチ陣セコンドの役割とは何でしょうか。世界戦ですから、勝つことが1番だとは誰もが認めます。しかし、勝敗が決してからラフプレイは許されるものではありません。相手がケガで選手生命を奪われるような行為です。断じて許されません。また、今回は試合前からの挑発行為なども何となく見苦しいものですね。プロですから、アマチュアと違いはありますが、逆にプロとしてのプライドもあるでしょう。まだまだ、将来性のある選手ですから、今後のトレーニングを積んで、正々堂々と戦ってチャンピオンになってください。

バスケット

昨日はいろんなバスケットボールがありました。

1 長崎西では 市民体育祭・・・生涯スポーツの観点から楽しむバスケットボールです。
2 アリーナでは 県総合選手権・・・オールジャパンの県予選です。勝負を追求するバスケットボールです。
3 再び長崎西 西高のバスケットボール練習・・・バスケットボールを通じての人間作りを目標とするバスケットボールです。それぞれのバスケットボールがあります。プレイヤーやコーチは何を目標にバスケットボールに取り組むかです。バスケットボールはチームスポーツですので、一人ではできません。仲間がいて成り立ちます。このことはどんなバスケットボールでも共通することです。「チームを大切にすること」重要ではないでしょうか。

甲子園

今日は、春の甲子園予選である秋季の九州大会県予選決勝が行われました。すでに、1、2位のチームは九州大会への出場を決めています。九州大会の結果が、春の甲子園の重要な選考資料となります。長崎県の優勝チームは、長崎商業が39年ぶりに勝ちとりました。長崎商業の監督さんとは、20年来の交流がありお互いに若い時からのつきあいです。特に、新任校が同じで、大学を卒業して現役ばかりで就職し、部活の指導に明け暮れたものです。互いに全国を目指し、何とか離島のハンディを乗り越えて頑張ったものです。その監督が率いるチームが、甲子園に一步近づきました。大変嬉しく思います。九州大会でも長崎商業の野球で勝ち進むことを期待します。

自信

練習・・・自分が一番下手だと思って取り組む

試合・・・自分が一番上手いと思って望む

このような心がけをしなければなりません。しかし、この逆のプレイヤーなど様々な心理で練習や試合は行われます。我々は機械ではありません。人間です。人間だからミスします。ミスをしない人間はいません。問題はミスの後の行動です。切り換えることのできる選手や尾を引く選手などがいます。この部分は何とかなければなりません。ミスを減らすことはできても、完全になくすことはできません。ミスを怖がってもプレイはできません。ミスやミスの処理の仕方を考えなければなりません。地区大会は、初の公式戦です。チームとして、プレイヤーとして上手い出来ない時にどう対応するかです。新チームらしいまた、新人らしい大会になるでしょう。

SSH

昨日はSSHのスポーツビジョンの測定でした。そして、明日はSSHの発表会です。公開授業や口頭発表、誌上発表など様々な形式で行われます。我々保健体育科では、誌上発表(3年生のバスケットボール班、野球班)があります。バスケットボール班は、股関節可動域と動きの問題、腕振り動作とジャンプの関係についての研究成果を発表します。また、私自身は、シニア体験と車椅子体験の公開授業です。対象は2年生で、バスケットボール部員も多く含まれています。SSHの発表は2日間行われますが、最終日は地区新人大会です。この日のメインは榊先生「ヒトゲノムの権威者」の講演があります。時間の許す限り聞いてみたい講演です。

エントリー

明日から地区大会が始まります。新チームにとって初の公式戦です。ユニホームをもらえる選手は15名です。部員は25名です。10名のプレイヤーがユニホームをもらえません。試合のメンバー発表は、試験の合格発表と同じです。もらえて嬉しい選手、もらえずに悲しむ選手など様々です。勝負の世界ですから、その時点の最高と考えるチームを作ります。また、大会の組合せやチーム事情等も反映されます。長崎西のユニホームを着る選手は、西高のプライドとベンチ入りできなかった選手の分までしっかりと戦わなければなりません。今回ベンチ入りできない選手は、次の県新人大会目指して頑張ってください。今回は、それぞれの役割をしっかりと果たしてください。さあー大会です。

レフリー1

バスケットボールに限らず、スポーツのゲームには欠かせない存在が審判です。審判の難しさや苦労は大変なものです。よく言われるのは、「判定は、良くて当たり前、悪ければ×××です。」私自身も十数年前までは、上級審判を目指し様々な試合の笛を吹きました。満足のいく試合(自分自身で考え)などホンの数試合です。日本公認をとって20代の頃は、1日3試合の笛や九州大会・全国高等学校総合体育大会の試合も経験し、年間100試合ほど吹いたこともありました。我々は、人間ですからミスをします。それは必ずです。だからミスをしない努力とミスの後の行動が大切です。審判も同様です。

レフリー2

ミスをしないためには、様々な努力が必要でしょう。ミスをしたならばそれをどうカバーするかです。大変ですがその繰り返して審判は上手くなります。プレイヤー、コーチ、レフリーでバスケットボールのレベルが上がると信じます。バスケットボールに関して、コーチとレフリーは常に情報の交換やバスケットボールの質(難しい表現ですが)をしなければなりません。そのためにお互いに協力しなければなりません。平成26年度には、長崎県で国体が開催されます。6、7年で審判を育てるには長いのか短いのかわかりませんが、何とかしなければなりません。それが我々の仕事であると思います。レフリーは、本当に大変ですが、選手のため、バスケットボールのため、自分のため(間違いありません)に頑張ってください。

レフリー3

レフリーは大変です。レフリーの謝礼といっても1ゲームたかが知れています。それこそ、申し訳ない程度です。レフリーで生計を立てることは、日本の場合は不可能です。何らかの仕事を持って、バスケットボールを愛する気持ちの上にボランティア精神がなければできません。それだけ大変ですが、評価に関しては選手・指導者に比べ極端に下がります。(私はそう思います。)だから、これを何とかしなければいけません。例えば、日本の場合、多くの審判が学校の教員というケースが多いです。その場合は、バスケットボール部の顧問として、生徒の指導や審判と大変です。指導を優先すると審判が上手くいきません。審判を優先すると指導が限られます。その辺の調節が大変です。そのようなケースで、誤解が生じたり・審判や指導の活動に支障出たケースを何回も見ています。しかし、審判がいなければ、ゲームは成り立ちません。審判のレベルが技術の向上にも関わっています。だから、大変ですし、何とかしなければなりません。何をどうすればよいのか、バスケットボールに携わるもので解決しなければなりません。

レフリー4

バスケットボールの技術の追求と審判のレベルはとても大切です。

例えば、オフェンスのスクリーンプレイなどは、典型的です。スクリーンは、触れあいを避けられる位置にセットしなければなりません。特にディフェンスの後方からは、視野に入りませんから。しかし、現実にはどうでしょうか。ディフェンスの使い方は典型的でしょう。以前ハンドチェックが非常に厳しくなり、振れ続けることのできるファウルが採り上げられました。これは、不当な手の使い方であれば、現在も同じだと思います。まだ、まだ技術の判定はたくさんあると思いますが、特に高校生や中学生に対しては、悪いプレイは審判が毅然として指導すべきです。中には、コーチ自ら理解していない人もいますから。審判がルールブックです。悪いプレイさらに言うなら悪質なプレイは、しっかりと笛を吹かなければなりません。いいプレイ・悪いプレイの見極めのためにも研修が必要です。特に、普段バスケットボールに携わっていない場合は、尚更です。現在の高校男子のスピードに対応するためには、それなりのフィットネスも必要です。目がついて行かなければ、判定は不可能です。高校男子の練習試合を吹いてみようという方は、ご連絡をください。お待ちしております。

ドラマ

バスケットボールではありませんが、同じ高校スポーツの結果で気になる「筋書きのないドラマ」がありました。全国高等学校サッカー選手権大会長崎県予選会で、強豪である国見高等学校が、準々決勝で長崎南山高等学校にPK戦の末敗退しました。国見といえばサッカー、高校サッカーといえば国見といわれるぐらい、県内では無敵の状態でした(21年連続出場)。その連続出場が途絶えました。国見高等学校は、今年から監督が交代され、初めての大会でしたのでその辺が影響したのではないのでしょうか。サッカーは、ベスト4が出揃い国見高等学校以外の学校にチャンスが巡って来ました。果たしてどんなドラマがあるのでしょうか。

ドラマ2

昨日より関東大学リーグの1部2部の入れ替え戦が始まりました。昨日は、1部のチームが勝ち、今日は2戦目です。2試合とも、2部のチームが勝ち、1勝1敗のイーブンになりました。入れ替え戦の決着は、明日の第3試合となりました。この4チームの中に長崎西の卒業生が4年生=チームの柱として出場しています。特に4年生にとっては、来年のチームが1部か2部かと言うことで、自分たちが直接プレイすることにはなりません。いろいろな思い(表現が難しいですが)があつての戦いでしょう。私は関東の大学バスケットを詳しく知りませんが、1部と2部はいろいろな意味で違いがあることは間違いありません。大東のC君と早稲田のM君には、是非頑張ってもらいたいですね。両選手とも1部昇格、1部残留となってほしいですね。明日はどんなドラマがあるのでしょうか。4年最後のリーグ戦悔いを残さない戦いですよ。この両名に次の言葉送ります。

粘りとひたむきさ・・・勝負は最後まであきらめない。

あきらめの悪さ=長崎西の伝統です。

温暖化

明日から平成19年度(第59回)長崎県高等学校総合体育大会の駅伝競走大会が晩秋の小浜路で開催されます。駅伝やロードの大会は、ウインタースポーツの代表です。当然ながら、寒い時に行う競技です。しかし、現実はどうでしょうか。昼の会議で窓を閉めた部屋は、暑く感じられエアコンを入れたほどです。高校駅伝は、11月上旬の開催です。私の記憶では平成7年度前後は、雪が降ったり、ロングコートや羽織ったりしたものです。とにかく寒かった印象です。明日、明後日の天候や気温はわかりませんが、まだまだ、日中の気温は高く、極端な場合は半袖姿でも通用します。確実に地球の温暖化は進んでいます。このままでは、春夏秋冬が春夏秋?の状況になるのではないのでしょうか。何とかしなければなりません。我々にできることは、小さなことかも知れませんが、塵も積もれば山となる。